

# ニホンカワトンボ

*Mnais pruinosa*

カワトンボ科



ニホンカワトンボ（左右とも）

## 名前の由来

日本にいるカワトンボの意。「川トンボ」は、河川の流  
れに生息し、ほとんど水辺を離れないことに由来する。  
「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダン  
ブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「ト  
ンバ」→「トンボ」となったのか、という説がある。「飛  
ぶ棒」の変化だという説もあるが、「棒」は漢語で、古代  
日本語としては不適切ともいう。漢字名：日本川蜻蛉

魚  
類

底  
生  
動  
物

両  
生  
類  
爬  
虫  
類

ト  
ン  
ボ

チ  
ョ  
ウ  
ウ

樹  
木

(在  
来  
種)  
草  
花

(外  
来  
種)  
草  
花

哺  
乳  
類

(水  
辺)  
鳥  
類

(草  
原  
樹  
林  
ワ  
シ  
タ  
カ)  
鳥  
類

## 形態的特徴

体長48～60mm。全身が光沢のある金緑色。オスには翅が透  
明なタイプとオレンジ色の2タイプがあり、メスは透明な

タイプのみ。

類似種：なし。(道南地方ではミヤマカワトンボが類似種)

## 生息環境・分布

平地から低山地の河川に生息している。

関東、東北以北。北海道内では、全域に分布。

分布：日本特産種。国内分布は、静岡県東部、甲信越から

十勝地方では、平地から低山地の河川に生息している。

## 食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャ  
クシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆  
虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒ  
キアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトン  
ボ類、小鳥類に捕食される。

## 繁殖生態・寿命

産卵はメスが単独で沈水植物の水面付近の植物組織内や常  
に水しぶきをあびるような場所の朽木や枯れ枝などで行わ  
れる。成虫は5月下旬から8月中旬に見られる。

寿命：幼虫期間1年以内、成虫期間1～2ヶ月。

## 興味深い話

■川で見られる大きめの細いトンボはこのトンボで、翅が大きくひらひら  
と飛ぶ。

■以前はヒガシカワトンボとされていたが、オオカワトンボと同種と判明  
し、合わせてニホンカワトンボとなった(2007)。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンカチュイ」という。



ニホンカワトンボ

## 配慮事項

樹林に囲まれた小河川に生息するため、護岸のない小河川とそのまわりに樹林があることが必要。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

## 参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村  
光俊 東海大学出版会 1988

「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」枝重夫 講談社 1982

「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」井上清・谷幸三 トンボ出版 1999

「カラー日本のトンボ」石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973

「名前といわれ 昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法  
政大学出版社 1977